

療育活動における強み活用の参考例 🧑‍🦯 架空の利用者：ゆうたさん（成人・療育手帳 A）

【架空状況・強み】自閉症スペクトラムと重度知的障害があり、見通しがあると安心しやすい

- ・言葉での説明より、写真・絵カード・実物提示で理解しやすい
- ・水や音、回るものなど、感覚遊びへの関心が高い
- ・慣れた手順では集中して取り組み、成功体験につながりやすい

🧑‍🦯 療育活動例①：「写真カードで今日の予定」

【目的】視覚的な見通しを活かし、不安の軽減と活動への参加を促す

【活動内容】

- ・写真カードで「始まり→活動→休憩→終わり」の流れを確認する
- ・終わった活動カードを「できた箱」に入れ、達成を目で確認する
- ・選択カードで「水遊び」「音楽」「休憩」などから本人が選ぶ

【ねらい】

- ・先の予定が分かることで安心して行動しやすくする
- ・選択経験を通して意思表示と自己決定の機会を増やす

🧑‍🦯 療育活動例②：「感覚あそびステーション」

【目的】好きな感覚刺激を安全に取り入れ、情緒の安定と集中を支える

【活動内容】

- ・水時計、やわらかボール、回転玩具などを少量ずつ提示する
- ・「もっと」「おしまい」のカードや身振りで希望を伝える練習をする
- ・刺激が強い時は静かな席へ移動し、休憩カードでクールダウンする

【ねらい】

- ・安心できる感覚活動を通して落ち着いて過ごす時間を増やす
- ・要求や拒否を適切に表す方法を身につける

🧑‍🦯 療育活動例③：「できた！生活手順チャレンジ」

【目的】慣れた手順への強みを活かし、身辺自立と達成感を育む

【活動内容】

- ・手洗い、片付け、タオルたたみなどを写真付き手順表で行う
- ・1工程ごとに支援者が短い声かけと身振りでサポートする
- ・最後に「できたシール」を貼り、本人の好きな活動につなげる

【ねらい】

- ・成功体験を積み、日常生活動作への自信を高める
- ・家庭や施設でも再現しやすい支援方法を共有する